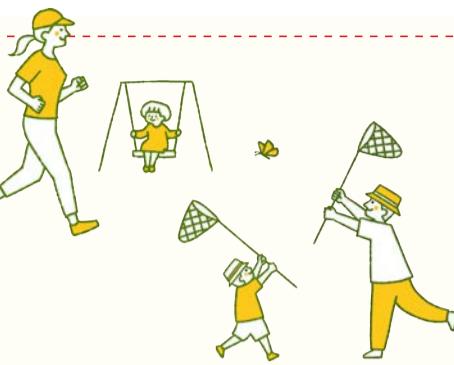


千代田区の公園が^{変わる!} ～方針改定に込めた思い～

「千代田区公園づくり基本方針2025」を策定するにあたり、私たちが考え、実行してきたこと、これから挑戦していくことなどを紹介します。



誰もが憩う都会のオアシスへ

千代田区の公園をよりよいものにしていくため、私たちは約1万人の区民アンケートやヒアリング調査を行いました。

結果は驚くほど明確でした。「外で遊ぶ場所がない」「ボール遊びを自由にしたい」「自然に触れたい」「休憩できる場所が欲しい」。都市の真ん中で暮らす人々が、本当に求めているのは、人と人、自然とつながれる“ほっとする、居心地のよい所”であると痛感しました。

大きな公園の整備が難しい千代田区において、多様化するニーズへの対応は簡単なことではありませんが、誰もがどこかに“居心地のよい所”を見つけられるよう、今後ますます公園整備に励んでまいります。



道路公園課長 村田さん

苦悩と挑戦—ギャップを埋めるために

「誰もが自由に使える公園」と「特定の利用者が満足できる公園」、その両立は簡単ではありません。子育て、福祉、まちづくり、デザインの有識者と6回にわたる検討会を重ねるとともに、職員同士でも議論を尽くしました。

その過程で、「公園で花火を利用してよいことにしてみよう」「今まで取り入れたことのない遊具を導入しよう」「夏場の芝生広場に日除けを用意してみよう」「ドッグランも試してみよう」「体育大会でブースを出してみよう」「遊具のない公園にプレイカーを呼んでみよう」などなど、総力を挙げて「やれることからやってみる！」との思いで取り組みました。



道路公園課 西川さん

子ども公園ブックも作りました！

区内の子どもたちに关心を持ってもらえるよう、「子ども公園ブック」を作成しました。デザインにも工夫を凝らし、絵本のようなタッチで表現しています。ぜひご覧ください。



審査員より

このような評価を いただきました！

もっとも特筆すべきは、行政主導で区内の公園すべてを組上にあげて取り組み、各公園の周辺地域の特性に合わせた利用テーマを策定して、公園に役割を分担した企画力と履行にあります。また都会では禁止されている花火遊びを取り入れるなど、生活者のニーズに応え、公園が本来持つ“にぎわい”をサポートする姿勢も良いと思います。

この事例がモデルケースとなって、公園だけでなく幅広い領域で行政主管のまちづくり構想に影響することを大いに期待しています。



協力して進めてきました

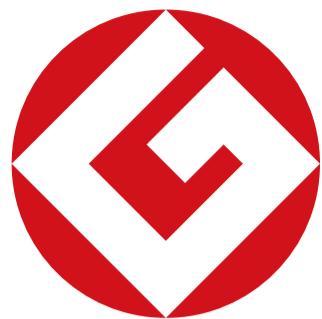
これからもよりよい公園を目指します！

受賞を受けて、より一層区民の皆さんと手を携えて新たな公園づくりを進め、一人ひとりの心の中にある公園のイメージが変化し、持続的に発展する都市へつながるよう取り組みます。



「千代田区公園づくり基本方針2025」策定に携わった職員一同

千代田区公園づくり基本方針2025



GOOD DESIGN AWARD 2025 グッドデザイン金賞

令和7年3月に策定した「千代田区公園づくり基本方針2025」が、2025年度グッドデザイン賞の金賞(各ユニットで最も優れたもの)に選ばれました。グッドデザイン賞は、日本のデザイン振興に寄与している賞で、日本国内で最も著名かつ最大規模のデザイン賞です。応募数5,225件の中で金賞はわずか19件、行政計画の受賞は極めて異例です。これは、区民の皆さんとともに進めた新しい公園づくりの理念と挑戦が高く評価された証です。



基本理念 千代田の歴史を継承し 次世代を育む 居心地よいコモンスペース^{※1}を目指して

デザインのポイント

- 01 千代田区立58の全公園を対象に、公園の規模や位置づけに応じた個性的な機能を強化した公園基本方針を策定
- 02 ハード整備とソフト政策を柔軟に組み合わせ、「できることからやる」というスピード感により公園機能を強化
- 03 公園でできることを増やす「未来の公園シーン」^{※2}を作成し、住民意見を踏まえた公園整備リニューアルを実施



互いに思いやりをもって 安心できる公園に

手持ち花火ができる公園など、特定の利用者を対象とした具体的なニーズに応えることも満足度向上につながると考え、柔軟な活用方法を検討します。そのためには、公園を利用する大前提として、公園を利用する人自身がルールを守り、他の人を尊重し思いやる「規範意識」が大切です。

※1 コモンスペース

「コモン」は共用や共同という意味。「コモンスペース」とは、集合住宅の中庭のような「身近な共有空間」のこと。利用者がルールを守ってリラックスできるようなゆとりある空間の確保や景観の整備、コミュニティの形成を促進する環境づくりを目指します。

※2 未来の公園シーン

「遊ぶ」「自然とふれあう」「学ぶ」「憩う」などをキーワードに、公園でできること、楽しめることを増やしていきます。たとえば、スケートパーク、ボルダリング、生きもの鑑賞や歴史学習をしたりテーブルでお茶を楽しんだりできるようにするなどです。



錦華公園

お茶の水小学校が隣接しており、地域住民と意見交換しながらデザイン案を決めました。特徴ある地形や歴史を継承し、インクルーシブ遊具や噴水広場が大人気です。

2025年度土木学会デザイン賞も受賞!

土木学会デザイン賞は、土木構造物や公共空間を対象に、地域と調和した景観創出や継続的な公共性を評価・顕彰する制度です。



神田橋公園

区民アンケートで子どもたちからボール遊び空間を求める声が多く挙がりました。そこで千代田区初のボールパークを整備します。令和8年3月から工事に着手し、令和9年3月完了予定です。



飯田橋こどもの広場

鉄道敷地に隣接し、道路から階段で登った位置にある特性を踏まえ、千代田区初のスケートパークやボルダリング施設を導入します。現在工事中で、令和8年3月完了を目指しています。